

2014 年ブラジルワールドカップ以降 スペインサッカー黄金期からの 衰退とその原因

尾崎 僚

序

1. 招集メンバーの是非
2. アイデンティティの喪失
3. 飢餓感の欠如
4. コンディション面の問題

結

序

まずスペインはEURO2008、2010 年ワールドカップ、EURO 2012 の主要国際大会を3連覇した。この5～6年間を黄金期と言う。本稿では、そんなスペインがなぜ2014 年のワールドカップで惨敗したのか文献を参考に考察していく。

まずスペイン代表のサッカースタイルは、「ティキ・タカ」と呼ばれる自分達がボールを保持するポゼッションサッカーである。その特徴は崩す戦術である。崩す戦術とはスペインの次のような特徴を活かした戦術である。まずスペインはディフェンスラインから攻撃を組み立て、相手ゴールまで崩せるオフェンス能力を持っている。特に中盤に優秀な選手が多く、パスの精度が高い為、攻撃のバリエーションが多い。スペインはこれらを武器に世界を制してきた。そんなスペインを率いているのがデル・ボスケ監督だ。デル・ボスケ監督はワールドカップ前のインタビューでスペインのスタイルが研究されているが変えないのか、という質問に対して「私たちにプレースタイルを変える考えはない。部分的な改

善はもちろん必要だが、ファンが愛し、結果を手にしてきたチームの土台に手をつけることはできない。」¹と述べている。しかしスペインのスタイルは完全に研究され、ワールドカップで惨敗することとなる。それに加えて4つの理由がスペインの敗退を招いたと考えられる。

1. 招集メンバーの是非

これに関してトニ・フリエロスは次のように述べている。監督ビセンテ・デル・ボスケが選出した今回2014年のメンバーは、これまでで最も疑問符のつくものだった。「失望のシーズンを過ごしたバルセロナから7選手を呼び、大会直前にコンディションに問題を抱えたジェゴ・コスタ&フアンフラン・トーレスも招集した。新鮮な空気を送り込んだのはコケ、ダビド・デ・ヘア（臀部の負傷で練習に参加することなくブラジルから帰国）のみであり、2008年、2010年、2012年に大舞台に立った選手の中で落選したのはアルバロ・アルベロアだけだった」²。

これについて私はスペインに新戦力となる人材がいなかったため、監督も経験のある選手を選ぶしかできなかったのだと私は考える。

2. アイデンティティーの喪失

これについてトニ・フリエロスは次のように語っている。「スペインは世界を飲み込んだプレースタイル、パスを主体としたフットボルの証印を忘れていた。デル・ボスケ監督のディフェンダーを5枚置く5バック対策はスペイン最強の一本槍の威力を削ぐものであり、年月の経過も相まって錆び付いたその武器は、オランダ戦の前半、そして悲痛なるオーストラリア戦でしか威力を発揮しなかった。槍のリーチを生かすことを忘れた戦術の曖昧さは、守備面の脆弱性、得点力不足に直結する結果とな

¹ 坪井義哉『フットボールチャンネル スペインは負けない。王者が見せる強く美しいフットボールの真髄』（カンゼン、2014年）p.9。

² トニ・フリエロス・スペインコラム・後掲。

っている。」³

研究されつくしたスペインのサッカーはワールドカップで全く通用しなかったのだ。

3. 飢餓感の欠如

これに関してトニ・フリエロスは次のように評している。「デル・ボスケ監督は、大会前に『すべてを勝ち取った選手たちと、そうではない選手たちの目つきは異なる』と語っていた。EUROを2度、W杯を一度制した選手たちが、逆境の中でリアクションを見せることはなかった。オランダの逆転を許したときも、チリに追い詰められたときも、敗戦を甘受するムードさえ漂っていたのである。チリ戦の後半開始直前、チームはイケル・カシージャス選手を中心として冷静に何かを話し合っていたが、そこに責任感はあるろうとも、逆転に向けた熱情の調和を垣間見ることはできなかった。」⁴

王者であるスペインには余裕があり、その余裕が命取りになったのだと私は考える。

4. コンディション面の問題

これに関してトニ・フリエロスは次のように評している。「バルセロナ&アトレティコ・マドリーはリーガエスパニョーラ最終節の直接対決まで熾烈な優勝争いを演じ、レアル・マドリー&アトレティコはチャンピオンズリーグ決勝を戦った。また前述のD・コスタ選手、そしてジェラル・ピケ選手、ジョルディ・アルバ選手はシーズン終盤に負傷に苦しんだが、デル・ボスケは迷うことなく本番でも起用している。それに加えてスペインフットボール連盟はブラジルへと向かう前にワシントンに滞在することを決定し、疲労の伴う長旅によって1日を無駄にした。オランダ、チリ戦においてフィジカル面で劣勢に立たされていたことは明らかであり、デル・ボスケ監督、RFEFはコンディション管理に慎重であ

³ トニ・フリエロス・スペインコラム・後掲。

⁴ トニ・フリエロス・スペインコラム・後掲。

るべきだった。」

⁵これについて私は、4年に一度という大きな舞台でコンディションを万全にできなかったというのはスペインサッカー界の反省すべき点だと考える。国のために戦う選手のことを考え、日程を調節することが今後必要となるだろう。

結

この4つの理由が主な原因となりスペインは惨敗という結果をまねいた。その後2016年には若手の台頭や、ティキ・タカを中心としながら、各選手の特性に合わせた戦術で調子をあげ、今年6月に行われるロシアワールドカップでは、優勝候補として期待されていた。しかし結果はベスト8で敗退。スペインのサッカーは世界各国から研究されていた。今後スペインがもう一度世界一になるには、新たなスタイルのサッカーが必要となるのかもしれない。

【参考文献】

坪井義哉『フットボールチャンネル スペインは負けない。王者が見せる強く美しいフットボールの真髄』（カンゼン、2014年）。

トニ・フリエロス「スペインコラム：裏口から去ったW杯、失敗を犯した8つの理由」（2014年6月26日）

<<https://www.goal.com/jp/news/1579/%E3%82%B9%E3%83%9A%E3%82%B7%E3%83%A3%E3%83%AB/2014/06/26/4914984/%E3%82%B9%E3%83%9A%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%A0%E8%A3%8F%E5%8F%A3%E3%81%8B%E3%82%89%E5%8E%BB%E3%81%A3%E3%81%9F%E6%9D%AF%E5%A4%B1%E6%95%97%E3%82%92%E7%8A%AF%E3%81%97%E3%81%9F%E7%BC%98%E3%81%A4%E3%81%AE%E7%90%86%E7%94%B1>>2018年12月10日アクセス。

⁵ トニ・フリエロス・スペインコラム・後掲。